

山口大学医学部

霜仁会会報

第297号

令和4年7月発行

発行人 福田進太郎

霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029

FAX:0836-31-7586

E-mail:jimu@soujinkai.jp

HP:http://soujinkai.jp/

印刷所 瞬報社オフリン印刷株

会長挨拶

霜仁会会長

福田進太郎



この度、山口大学医学部同窓会・一般社団法人霜仁会の第13代会長に福本陽平会長の後任として令和4年5月15日付で選出されました福田進太郎と申します。昭和54年山口大学医学部卒業後、第二外科（現 消化器腫瘍外科）に入局、消化器外科医として医師人生を歩んで参りました。

霜仁会ホームページでの就任挨拶で母校と同窓会の沿革に触れましたように、

本会は昭和26年創立以来70余年の長い歴史を持ち、山口医学専門学校、医科大学、山口大学医学部卒業生を併せた会員数は今年度で6,400名を超えています。全国には33の支部がおり、卒業生は国内外の大学・研究施設で医師や研究者として、あるいは国や地方の厚生行政官として、ま

た、地域における重要な医療の担い手として数多くの先生方が幅広く活躍しております。山口大学では岡正朗学長（昭51卒）の後任として谷澤幸生学長（昭58卒）が本年4月に選出されましたが、他大学の学長を務めている方もおられます。今まで多くの支部会に参加させていただいたが、遠方の地で活躍されながら母校のことを忘れずに応援して下さる先輩、後輩の方々の姿にいつも感謝しております。今後も若い先生方が後に続いて更なる活躍をされるよう願っています。

ていますが、今後も医療界の社会に対する貢献がさらに重要となる時代になると思われます。また「想定外」、「100年に一度」という言葉がむなしく聞こえるほど頻発する気候変動に伴う大規模な自然災害や、地震、ロシアのウクライナ侵攻などによる不安定化した世界情勢の下で、新たな救急医療や国際医療支援などが今以上に必要とされるようになると思われま

す。同期会などの会場にも是非ご利用ください。また、平成20年に医学部に隣接した地に建設された霜仁会医学交流会館は、現在3階部分に霜仁会本部が置かれており、定期理事会や各種委員会・会議などに使用され、この建物の2階部分では昭和52年から霜仁会検査センターの事業を継続しています。昭和62年度から霜仁会の最も重要な事業の一つとして、会員の優秀な業績を表彰する霜仁会賞が設けられました。これまでの本賞受賞者は世界の一流紙に掲載される業績を残され、その後、医師や医学者として大いに活躍しておられますので、会員の皆様の霜仁会賞への応募をお願い致します。

さて、新型コロナウイルスのパンデミック発生から2年余りが過ぎ世界はウィズコロナの時代に入りました。変異を続けるウイルスに対する治療法、治療薬の開発もスピード感をもって進みつつありますが将来的な課題は山積しています。医療界には多大な負荷がかかり、働き方改革が浸透する中で人材不足が深刻化し

ています。皆様のおかげです。多忙な生活が続いていることと思われまが、どうぞ健康に留意されたいと思います。皆様の寄付で平成9年に、山口大学医学部創立50周年記念事業として医学部キャンパス内に竣工した白亜の建物「霜仁会館」は、木田池とともに春は桜にツツジ、秋は紅葉と銀杏に飾

〈新役員紹介〉



会長 福田進太郎 (昭和54年卒)



副会長 藤村嘉彦 (昭和56年卒)



副会長 黒川典枝 (昭和59年卒)



副会長 水田英司 (昭和47年卒)



監事 藤井新也 (昭和52年卒)

にありますように、会員相互の親睦と交流を深めその発展を図るとともに、母校である山口大学医学部の大いなる発展のために、様々な形で協力や支援を行うことにあります。この立派な霜仁会の目途達成のため、微力ではありますが他の役員共々精一杯頑張つてまいり所存ですので、是非とも霜仁会会員の皆様方や関係各位の暖かいご支援、ご協力を戴きますようよろしくお願い致します。

令和4年度 霜仁会総会報告

令和4年度霜仁会総会が、去る5月15日(日)AMAKラウンプラザホテル宇部にて開催された。今回の総会は田中伸幸理事(昭和63年卒)の司会で始まった。はじめに福本陽平会長(昭和47年卒)の挨拶で、この日をもって会長を退任されることを告げられた。

次に、代議員選挙について若松隆史選挙管理委員会委員長(昭和56年卒)から、2月末より任期満了に伴う代議員の立候補を募ったところ、支部代議員および期別代議員とも定数内の応募があり、選挙は行わず代議員を選出したことが報告された。

め、微力ではあります。結果、第1号議案から第6号議案まですべて承認された。また、今年度は役員改選にあたり、4月1日から候補を募ったところ、理事および監事の候補者が立候補し定数内であった。候補者全員の氏名が読み上げられ全員が承認された(第7号議案)。新任代議員の挨拶が恒例の第8議案においては、松田陸来学生代議員(学生1年生)が挨拶に立った。(詳細は本会報の3〜4頁及び7〜9頁)。

休憩をはさんで、後半の総会は谷澤幸生山口大学学長、篠田晃医学系研究科長、医学部長と杉野法広附属病院長の他、4名の医学科教授と霜仁会賞県内受賞者3名を迎えて、福本陽平会長の挨拶で再開された。

最初に、篠田医学系研究科長・医学部長から医学部の近況として、医学科長に田邊剛教授が就任されたこと、新型コロナウイルス感染症対策としてリモート教育に加えてDX(デジタルトランスフォーメーション)の促進に力を入れていること、外科教育の強化を図っていること、戦略的に外部資金獲得のための組織作り

が提示された。審議の結果、第1号議案から第6号議案まですべて承認された。また、今年度は役員改選にあたり、4月1日から候補を募ったところ、理事および監事の候補者が立候補し定数内であった。候補者全員の氏名が読み上げられ全員が承認された(第7号議案)。新任代議員の挨拶が恒例の第8議案においては、松田陸来学生代議員(学生1年生)が挨拶に立った。(詳細は本会報の3〜4頁及び7〜9頁)。



令和4年度霜仁会本部役員・職員

杉野病院長の挨拶では、コロナ禍での病院運営に関して、多職種からなるCOVID-19対策チーム(YUME COO)を中心に教職員一丸となった対応で、高度医療を提供する県内最後の若ととしての役割を果たしていること、病院再開発整備事業が順調に進んでおり現在B棟の改修が行われていること、これに伴う病床削減に対し経営努力で黒字経営をしていることを話された。

研究面では、AIシステム医学・医療研究教育センター(AISMEC)との共同研究成果が出ていることや今後のAIホスピタル構想について述べられた。医師の確保に関しては、新入局者が50名を超える状況が続いていることが報告された。

谷澤幸生学長から4月1日より第14代山口大学学長に就任されたことが改めて報告された。明日の山口大学ビジョン2030を策定する山口大学」という目標を立てたこと、DXの推進を見据えた人材育成、外部



資金の獲得、連携推進法人の設立をはじめとする計画を述べられ、霜仁会の支援を要請された。

昨年度判明した会員物故者27名の名前が読み上げられた。

吉田智治代議員(昭55年卒)がスライドを使ってお話しされた。北九州市は「ほど

よく都会で、ほどよく田舎」で、住みたいまちランキングで毎年上位に選出されるようになったこと、その一因に医療環境の良さが上げられることや、小倉記念病院を中心とした充足した医療事情を話された。また、コロナ禍の影響で支部会が令和2年以降開催できていないこと、藤澤浩一先生(平16年卒)が産業医科大学の教授に就任されたこと、会員の動向が把握しにくい問題点を話された。

引き続き、霜仁会賞授賞式が厳かに執り行われた。学術振興賞選考委員長の石原秀行教授から各賞の選考経緯が説明された。本賞に1名、奨励賞に2名、藤生賞に2名の応募があり、厳正な審議の結果、本賞1名、奨励賞1名、藤生賞1名が決定されたと報告があった。社会活動部門賞選考委員長の白澤文吾教授から選考経緯について、3名の応募があり、うち2名を社会活動部門賞として決定したことが報告された。受賞者には会長から表彰状と副賞が授与された。令和3年度霜仁会賞受賞者は下記のとおりである。

第51回霜仁会学術振興賞

本賞

中村 吉秀

(島根大学医学部

平24年卒)

山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学講座

「リアノジン受容体とカルモジュリンの結合はカテコラミン誘発多形性心室頻拍の抑制に必須である」

奨励賞

浅野 澄恵 (平23年卒)

川崎医科大学 リウマチ・膠原病学

「MIF-23欠損はS1p1を標的としてループス腎炎の増悪をきたす」

藤生賞

田村 功 (平16年卒)

山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学講座

「ヒト子宮内膜間質細胞の脱落膜化における遺伝子発現調節機構の解明」

第41回霜仁会社会活動部門賞

伊東 武久 (昭45年卒)

「〇〇徳山中央病院「産婦人科の発展と緩和医療の確立」

大橋 博文 (昭60年卒)

埼玉県立小児医療センター

1 遺伝科

「先天性・遺伝性疾患(先天異常症候群)における包括的支援活動」

続いて、議案審議後の臨時理事会にて決定した新任

役員として、福田進太郎会長(昭54年卒)、藤村嘉彦副会長(昭56年卒)、黒川典枝副会長(昭59年卒)の就任および理事役割分担が紹介された。福田新会長の挨拶では、医学部医学科だけでなく山口大学全体の発展に力を尽くしたいと抱負を語った。また、来年4月東京で開催される日本医学会総会に併せ、霜仁会懇親総会を開催することを案内された。

最後に、これまで6期12年会長を務められた福本陽平先生、および14年間理事を務められた山本浩造先生(昭61年卒)の2名の退任役員に感謝状と記念品が贈られた。



**令和4年度
各委員会の活動方針ならびに事業計画**

- 総務・総合補償保険運営**
- 白澤宏幸 委員長
1. 公衆衛生の向上のため
の教育助成事業として、県民を対象とした健康増進教育や障害者スポーツの指導者に対し医学的見地からの教育についての支援を行います。
 2. 霜仁会ホームページをリニューアルします。
 3. 支部会が開催される場合、可能な限り本部からも出席することとし、要請があれば医学部教官にも出席依頼の便宜を図ります。
 4. 霜仁会会員総合補償制度を充実させます。

5. 総会、理事会、委員長会議、各種委員会、理事と新任教授との懇談会等を実施していく予定です。

6. 財政基盤強化のため、会費納入率の向上および収益事業部門の活性化を図ります。

特に会費納入率は60%を目標としています。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

霜仁会賞運営・医学教育助成

山本 健 委員長

本委員会では、霜仁会賞による医学や社会に貢献があった先生方への表彰をさせていただきます。

霜仁会学術振興賞は以下の3つの賞があります。次世代のリーダーと成り得る優れた研究論文に霜仁会学術振興賞本賞を、新進気鋭の将来の発展が期待し得る優れた研究論文に霜仁会学術振興賞奨励賞を、長期に亘る一連の優れた業績に対して霜仁会学術振興賞藤生賞を贈呈しています。

霜仁会社会活動部門賞は、活発に社会活動を行い、社会福祉および医学の向上に寄与した、個人または団体に対して贈呈しています。

外部の選考委員の先生方により、厳正かつ公平に審査していただいております。

応募要項は霜仁会のホームページ (http://soujinkai.jp) をご参照ください。

皆様からの多数の応募をこのころよりお待ちしております。医学教育助成では医学祭の助成、白衣の授与、百蘭会への助成を行っております。

広報

奥屋 茂 委員長

広報委員会では、霜仁会会報を年4回定期的に編集・発行し、皆様にお届けしています。

コロナ禍でも、この会報を通して、会員相互のつながりを築くことができると考えています。

学内外の会員のご活躍や、支部・クラスでの活動、山口大学医学部ならびに附属病院の最新の動向、教室・新入医局員・関連病院・クラブ紹介等について、広範かつ詳細な情報を収集し、充実した内容で発信できるように、編集委員会で検討しています。

リニューアルされるホームページも活用できると考えています。

このような霜仁会会報の趣旨をご理解いただき、情報をお寄せいただくとともに、積極的にご寄稿ください。

また、当委員会からの原稿依頼が手元に届いた際には、ぜひともご協力

いただきますよう何卒よろしくお申し込み申し上げます。

検査センター運営

河野裕夫 委員長

霜仁会検査センターの主な業務内容は、病理組織・細胞診標本の作成とその病理診断ならびに細胞診断です。

また、大学の先生方の為には、研究支援としての病理組織標本の複製も行っていきます。

霜仁会の収益部門ではありますが、医学部キャンパスに隣接しているというその立地を生かし、大学近隣の先生方の診療あるいは研究の支援を第一の目的として活動しています。

センター職員一同、より良い標本と診断を迅速に先生方にお届けできるよう日々努力しております。

しかしながら、センターの収益は近年減少する傾向にあります。

検査料金に關しては、一般の検査センターとの競合もあり、病理組織・細胞診標本診断のみを行っている当検査センターとしては、赤字にならない

最低限の料金設定としておりますが、競合他社の水準にはとどかず、会員の先生方の御協力なしには収益部門として成り立ちません。

今後とも霜仁会検査センターをご利用いただき、よ

り一層のご支援を賜りますよう、厚くお願い申し上げます。

組織対策

矢賀 健 委員長

組織対策委員会は、会員相互の親睦・交流をはかり会の発展に努めます。

例年支部総会が開催される時には、会長をはじめ本部役員が出席し、山口大学医学部や霜仁会本部の現況を報告してまいります。

その際、依頼があれば医学部教授にお願いし、学術講演をしていただけるよう手配しております。

しかし、一昨年、昨年と新型コロナウイルス感染症拡大により、各種会合の開催に制限がかかったため、ほとんど支部総会が開かれませんでした。

今年度は、再開される可能性があり、以前のような交流ができることを期待しております。

委員会では、支部総会参加以外にも、山口大学医学部附属病院医療人育成センターに協力し、山口大学で研修する初期臨床研修医をサポートしたり、2号会員数の増加にも努めております。

関連病院対策・勤務医対策

城戸研二 委員長

コロナ禍の影響で、この2年間は活動が制限されて

いましたが、ようやく本来

の活動が再開できそうな状況になり、引き続き重要課題である、山口大学出身者の県内定着を促進するため

の対策に取り組んでまいります。ポストコロナ時代における学生のふくめた医療

当事者の新たな意識変革に期待しつつ、地域医療に希望がもてるように、地域枠の拡大、地域枠学生へのケアや県内研修医へのアプローチ、魅力ある研修環境の構築等につき、医療人育成

センターや行政機関とも協力しながら、対策を検討してまいります。

また、勤務医の働き方改革についても、山口県内の若手医師不足および医師の高齢化という深刻な現実を受け止めた

うえで、関連病院長協議会等とも協議しながら、関連病院の勤務医の実態を理解した上での協力連携をとるべく、検討してまいります。

国際医学交流・会館運営

藤岡頭太郎 委員長

山口大学留学生との交流を図るため、医学部のみならず、他学部と合同の交流会等の行事にも積極的に参加するとともに、支援を行って参ります。

昨年もコロナ禍のため交流会は中止になりました。昨年は学部留学生交流会から寄付の依頼

がありませんでしたので助成しませんでした。今年度は学部留学生交流会から要請があれば助成を行います。医学部医学科の留学生に対しては奨学金の貸与を行います(1件20万円)。昨年は応募者がありませんでした。帰国までにPeer Reviewのある英文雑誌に受理されれば返還を免除しています。応募の締め切りは毎年10月31日です。応募につきましては霜仁会事務局にお問い合わせください。

理事會報告

第8回理事会

令和4年3月18日(金)
19時より医学交流会館3階
会議室において22名の出席
のもと開催された。

【報告事項】

- 1. 1月21日(金) 編集委員会 (奥屋)
- 2. 2月16日(水) 山口大学同窓会理事会 (福本)
- 3. 2月28日(月) 検査センター運営委員会 (河野)
- 4. 3月11日(金) 委員長会議 (白澤)
- 5. 3月18日(金) 研修医修了式 (福田)

山口大学同窓会理事会 (福本)

検査センター運営委員会 (河野)

委員長会議 (白澤)

研修医修了式 (福田)

【審議事項】

- 1. 令和4年度霜仁会総会・懇親会の実施方法について、資料により説明があり、承認された。
- 2. 令和4年度霜仁会総会日程及び式次第について、資料により説明があり、承認された。(白澤)
- 3. 令和3年度決算見込(霜仁会法人会計、一般会計、検査センター会計他)について、原案の決算見込が承認された。(白澤)

令和4年度予算案(霜仁会法人会計、一般会計、検査センター会計他)について、原案の予算案が承認された。(白澤)

第1回理事会

令和4年4月15日(金)
19時より医学交流会館3階
会議室において26名の出席
のもと開催された。

【報告事項】

- 1. 3月23日(水) 謝恩会 (福本)
- 2. 3月28日(月) 学術振興賞最終選考委員会 (山本)
- 3. 3月29日(火) 社会活動部門賞選考委員会 (沖中)
- 4. 4月6日(水) 新入生オリエンテーション (福田)
- 5. 4月13日(水) 会計監査 (河田)

令和4年度事業報告(案)について、原案の事業計画案が承認された。(福田)

第2回理事会

令和4年5月20日(金)
19時より医学交流会館3階
会議室において23名の出席
のもと開催された。

【報告事項】

- 1. 4月15日(金) 編集委員会 (奥屋)
- 2. 4月27日(水) 関連病院長協議会幹事会 (黒川)
- 3. 5月15日(日) 霜仁会総会 (白澤)
- 4. その他

令和4年度事業報告が承認された。(福田)

令和4年度事業報告が承認された。(福田)

令和4年度事業報告が承認された。(福田)

令和4年度事業報告が承認された。(福田)

【審議事項】

- 1. 令和3年度決算について(霜仁会法人会計、一般会計、検査センター会計他)が承認された。(白澤)
- 2. 令和3年度会計監査報告が承認された。(藤井)
- 3. 令和4年度予算案(霜仁会法人会計、一般会計、検査センター会計他)が承認された。(白澤)
- 4. 令和3年度事業報告が承認された。(福田)
- 5. 令和4年度事業計画(案)が承認された。(福田)

令和3年度会計監査報告が承認された。(藤井)

令和4年度予算案(霜仁会法人会計、一般会計、検査センター会計他)が承認された。(白澤)

令和3年度事業報告が承認された。(福田)

令和4年度事業計画(案)が承認された。(福田)

春の叙勲受章者

●瑞宝小綬章 受章

内山哲史先生(昭52年卒)
ご受章、誠にありがとうございます。

今後、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

教授に、藤澤浩一先生

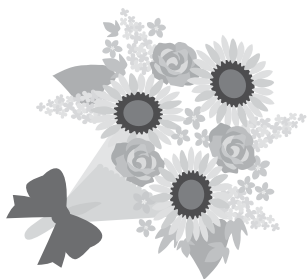
(山口大学大学院医学系
研究科消化器内科学講座
講師)が4月1日付で
就任

【審議事項】

- 1. 霜仁会総会における反省点について審議し、新型コロナの感染状況を考慮し、次年度以降の総会及び懇親会の開催方法等を引き続き理事会で協議することとした。(白澤)

新入生1年(107名)

木村 優里 (山口県)	久我 俊介 (山口県)
衣川 花 (福岡県)	國廣 美晴 (福岡県)
北野 諒香 (東京都)	倉上 真緒 (山口県)
河野 大輝 (山口県)	桑原 葵 (福岡県)
上村 千尋 (福岡県)	河野 廉正 (山口県)
貝原 颯雅 (島根県)	小林 充樹 (山口県)
小倉 美南 (山口県)	近藤 詠美 (山口県)
沖村 和憲 (山口県)	境 彬伸 (福岡県)
岡田 泰成 (広島県)	笹木 美来 (広島県)
岡 奎佑 (広島県)	澤井 裕香 (大阪府)
大塚 天誠 (山口県)	塩田虎汰朗 (山口県)
江藤 心晴 (山口県)	柴田 優 (福岡県)
稲葉 彩芽 (愛知県)	下池 広亮 (福岡県)
上田 真司 (兵庫県)	城山 怜士 (広島県)
市原 怜華 (山口県)	末竹修一朗 (山口県)
末永 太一 (山口県)	末永 太一 (山口県)
杉浦 克樹 (山口県)	杉本 小桜 (福岡県)
杉本 小桜 (福岡県)	鈴木 雄大 (東京都)
末竹修一朗 (山口県)	高山 天 (千葉県)
末永 太一 (山口県)	竹下晋太郎 (宮崎県)
杉浦 克樹 (山口県)	立川ひより (山口県)
杉本 小桜 (福岡県)	立田 晃也 (山口県)
末竹修一朗 (山口県)	田中 玄都 (山口県)
末永 太一 (山口県)	田中 周防 (山口県)
杉浦 克樹 (山口県)	田中七那実 (山口県)
杉本 小桜 (福岡県)	田場 拓実 (福岡県)
末竹修一朗 (山口県)	田丸 裕貴 (山口県)
末永 太一 (山口県)	田村 健祐 (神奈川県)
杉浦 克樹 (山口県)	丹治 宣貴 (広島県)
杉本 小桜 (福岡県)	
末竹修一朗 (山口県)	
末永 太一 (山口県)	
杉浦 克樹 (山口県)	
杉本 小桜 (福岡県)	



令和4年度 山口大学医学部医学科 新入生・編入生名簿

都築憲一郎 (福岡県) 戸倉宗一郎 (大阪府) 友森菜々子 (山口県) 長尾海波 (山口県) 永田蒼汰 (静岡県) 中野温斗 (山口県) 中村祐介 (山口県) 中山貴博 (広島県) 縄田泰吾 (山口県) 西垣柚花 (兵庫県) 西谷亮彦 (広島県) 野崎竜馬 (山口県) 原一颯 (山口県) 原涼佳 (山口県) 原田結衣 (山口県) 原田結衣 (山口県) 張間倅介 (山口県) 檜垣里緒 (神奈川県) 平林春樹 (福岡県) 平山樹 (福岡県) 藤野顕 (山口県) 藤村公大 (福岡県) 松尾一秀 (広島県) 松本陸来 (山口県) 松本彩花 (山口県) 松本彪 (山口県) 松本ももこ (熊本県) 丸尾洗哉 (福岡県) 三浦愛実 (山口県) 三阪伊織 (広島県) 溝上尊 (福岡県) 南園隆文 (山口県) 三好佐空 (山口県) 椋梨季美花 (山口県) 村重百合子 (山口県) 森重杏介 (山口県) 矢野保乃花 (福岡県) 山内恵理哉 (広島県)

令和4年度
霜仁会賞募集のお知らせ

第52回 学術振興賞
第42回 社会活動部門賞

- 1 今年も霜仁会賞を募集しますので奮ってご応募下さい。
- 2 応募〆切 令和4年10月31日 (消印有効)
- 3 詳しくは、霜仁会ホームページ (<http://soujinkai.jp/>) を参照して下さい。不明な点は霜仁会本部にお問い合わせ下さい。 TEL (0836) 22-2029

編入生2年 (10名)
石倉詩織 (兵庫県) 井上裕加里 (徳島県) 今成真樹 (埼玉県) 大磯彰裕 (熊本県) 小林大悟 (千葉県) 寺地陸 (広島県) 平井貴大 (広島県) 平田純 (北海道) 藤井裕起 (長野県) 三上元 (福岡県)

山口博之 (千葉県) 山田蒼汰 (山口県) 山村泰楊 (山口県) 山本優輝 (広島県) 吉澤蓮 (広島県) 吉田名那 (山口県) 若佐英美里 (山口県) 和崎満里帆 (山口県) 渡辺みどり (福岡県)

令和4年度
霜仁会年会費納入のお願い

年会費：10,000円

※年会費の納入がお済みでない方に振込用紙を同封いたしましたので、よろしくお願ひいたします。

ご寄付の御礼 — 四六会の先生方 —

霜仁会の先生方には平素よりご支援、ご指導を賜っており、心より感謝申し上げます。

さて、四六会 (S46年卒) の先生方から、卒後50周年目を記念して、医学部医学科へ多大なるご寄付を頂きました。この度の格別のご支援に厚く御礼申し上げます。

この度のご寄付にあたり、「今後の教育の充実と医学の発展のために、学び舎に寄付を」と大変ありがたく温かいお言葉を、四六会の先生方から頂戴しました。

賜りました寄附金につきましては、その趣旨を十分に活かし、医学教育の充実と更なる発展の為に活用させていただきたいと存じます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月吉日 山口大学医学部長 篠田 晃

▼この度のお志により整備した医学生教育のための備品



(実習用顕微鏡)



(解剖実習用モニター)

令和4年度 霜仁会総会報告

令和3年度 事業報告書

Table with 2 columns: Activity description and Date/Details. Includes categories like '公益目的事業', '継続事業', and 'その他の事業'.

◎本部役員

Table listing board members (会長, 副会長, 理事) and their names and IDs.

◎霜仁会本部役割分担(理事・事務局)

Table showing the division of roles for board members and the secretariat across various committees.

令和4年度 事業計画

Table with 3 columns: I. 公益目的事業, II. その他の事業, III. 収益事業. Lists planned activities for the next year.

貸借対照表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

I 資産の部	当年度	前年度	増減
	1. 流動資産	149,325,370	154,818,393
2. 固定資産	69,381,575	66,228,311	3,153,264
資産合計	218,706,945	221,046,704	△ 2,339,759
II 負債の部	当年度	前年度	増減
	1. 流動負債	2,906,375	7,330,375
2. 固定負債	0	0	0
負債合計	2,906,375	7,330,375	△ 4,424,000
III 正味財産の部	当年度	前年度	増減
正味財産合計	215,800,570	213,716,329	2,084,241
負債および正味財産合計	218,706,945	221,046,704	△ 2,339,759

正味財産増減計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位：円)

一般正味財産増減の部	当年度	前年度	増減
1. 経常増減の部			
経常収益計	114,236,881	125,857,627	△ 11,620,746
事業費計	107,973,658	106,150,896	1,822,762
管理費計	4,107,982	2,810,747	1,297,235
経常費用計	112,081,640	108,961,643	3,119,997
評価損益等調整前当期経常増減額	2,155,241	16,895,984	△ 14,740,743
当期経常増減額	2,155,241	16,895,984	△ 14,740,743
2. 経常外増減の部			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	2,155,241	16,895,984	△ 14,740,743
法人税、住民税及び事業税	71,000	2,060,100	△ 1,989,100
当期一般正味財産増減額	2,084,241	14,835,884	△ 12,751,643
一般正味財産期首残高	213,716,329	198,880,445	14,835,884
一般正味財産期末残高	215,800,570	213,716,329	2,084,241

《実施事業の公益目的支出明細》

	計画	実施
特定寄附 (1)		
・山口大学(医学部)への寄附	3,000,000	3,000,000
・山口大学(医学部)への寄附	500,000	2,100,000
特定寄附 (2)		
・山口大学教育後援財団への寄附	100,000	0
継続事業 (1)		
・医学祭への助成	700,000	700,146
・白衣授与	400,000	438,328
・白蘭会への助成	200,000	200,000
・医学部関連病院長協議会への助成	200,000	200,000
・研修医教育への助成	500,000	339,439
・国際奨学金	200,000	0
継続事業 (2)		
・健康増進教育への助成	400,000	0
・障害者スポーツ医学推進への助成	100,000	120,330
継続事業 (3)		
・霜仁会賞による学術研究の発展奨励助成	1,300,000	1,790,977
公益目的支出合計	7,600,000	8,889,220

《公益目的支出計画実施報告書》

令和3年度（平成33年4月1日から令和4年3月31日まで）の概要

1 公益目的財産額	161,404,657
2 当該事業年度の公益目的支出収支差額	71,839,382
①前事業年度末日の公益目的収支差額	62,950,162
②当該事業年度の公益目的支出の額	8,889,220
③当該事業年度の実施事業収入の額	0
3 当該事業年度末日の公益目的財産残高	89,565,275

収支予算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

	予算額	前年度予算額	増減
収入 計	118,324,100	125,490,600	△ 7,166,500
支出 計	122,232,800	124,000,800	△ 1,768,000
収支差額	△ 3,908,700	1,489,800	△ 5,398,500
他会計振替額	0	0	0
当期収支差額	△ 3,908,700	1,489,800	△ 5,398,500
前期繰越収支差額	146,418,995	147,488,018	△ 1,069,023
次期繰越収支差額	142,510,295	148,977,818	△ 6,467,523

《公益目的支出計画の状況》

公益目的支出計画の完了予定事業年度の末日 ① 計画上の完了見込み 2035年3月31日

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実施	計画	実施	計画
公益目的財産額	161,404,657	161,404,657	161,404,657	161,404,657	161,404,657
公益目的収支差額	60,800,000	62,950,162	68,400,000	71,839,382	76,000,000
公益目的支出の額	7,600,000	6,180,274	7,600,000	8,889,220	7,600,000
実施事業収入の額	0	0	0	0	0
公益目的財産残高	100,604,657	98,454,495	93,004,657	89,565,275	85,404,657

代議員名簿

◎支部

關東支部	小川健治(47)	昭和24年卒
	吉川宏起(52)	昭和25年卒
	高橋隆二(62)	昭和26年卒
	田中一成(62)	昭和28年卒
中京支部	二ノ宮三生(54)	昭和29年卒
北陸支部	市村宏(55)	昭和30年卒
京滋支部	渡邊雅彦(59)	昭和31年卒
大阪支部	今井克次(61)	昭和32年卒
	久保田尚(H09)	昭和33年卒
兵庫支部	小山治(50)	昭和34年卒
岡山支部	園尾博司(47)	昭和35年卒
広島支部	加藤誓(H03)	昭和36年卒
	國木弘道(49)	昭和37年卒
山陰支部	西村新吉(40)	昭和38年卒
四国支部	宮内文久(48)	昭和39年卒
	黒田泰弘(59)	昭和40年卒
岩国支部	増田光家(59)	昭和41年卒
柳井支部	新谷清(47)	昭和42年卒
周南支部	井上祐介(H02)	昭和43年卒
	大城研二(53)	昭和44年卒
山口支部	中村洋(55)	昭和45年卒
	神徳翁甫(38)	昭和46年卒
防府支部	船津直彦(57)	昭和47年卒
長門支部	斎木淳(62)	昭和48年卒
萩支部	中村勝昭(53)	昭和49年卒
宇部支部	福田信二(48)	昭和50年卒
	吉永榮一(56)	昭和51年卒
小野田支部	瀬戸信夫(50)	昭和52年卒
厚狭支部	民谷正彰(55)	昭和53年卒
美祢支部	本間喜一(52)	昭和54年卒
下関支部	長岡榮(54)	昭和55年卒
	伊原公一郎(56)	昭和56年卒
	山下智省(60)	昭和57年卒
北九州支部	吉田智治(55)	昭和58年卒
	坂野滋(H02)	昭和59年卒
福岡支部	海江田令次(52)	昭和60年卒
	矢田部左近(57)	昭和61年卒
佐賀支部	筒井俊徳(53)	昭和62年卒
長崎支部	今村汪(44)	昭和63年卒
佐世保支部	大石秀三(53)	平成元年卒
宮崎支部	市来能成(62)	平成2年卒
熊本支部	河野秀親(47)	平成3年卒
大分支部	藤倉義久(54)	平成4年卒
鹿兒島支部	今村純一(52)	平成5年卒
沖繩支部	武村盛信(51)	平成6年卒
大学支部	白澤文吾(H05)	平成7年卒
	高見太郎(H11)	平成8年卒

◎期別

	昭和24年卒		平成9年卒
	昭和25年卒	渡邊裕	平成10年卒
	昭和26年卒		平成11年卒
	昭和28年卒		平成12年卒
	昭和29年卒	中村克衛	平成13年卒
	昭和30年卒		平成14年卒
	昭和31年卒	猪本利雄	平成15年卒
	昭和32年卒	緒形健	平成16年卒
	昭和33年卒		平成17年卒
	昭和34年卒	山田通夫	平成18年卒
	昭和35年卒	和田一成	平成19年卒
	昭和36年卒	高田千弘	平成20年卒
	昭和37年卒	土屋公德	平成21年卒
	昭和38年卒	香月哲也	平成22年卒
	昭和39年卒	江里健輔	平成23年卒
	昭和40年卒	吉岡嘉明	平成24年卒
	昭和41年卒	加藤紘	平成25年卒
	昭和42年卒	沖田極	平成26年卒
	昭和43年卒	鈴木英太郎	平成27年卒
	昭和44年卒	渡木邦彦	平成28年卒
	昭和45年卒	坂部武史	平成29年卒
	昭和46年卒	小野弘子	平成30年卒
	昭和47年卒	高橋睦夫	平成31年卒
	昭和48年卒	小田悦郎	令和2年卒
	昭和49年卒	倉田悟	令和3年卒
	昭和50年卒	市原清志	令和4年卒
	昭和51年卒	三木秀生	
	昭和52年卒	内田正志	◎2号会員
	昭和53年卒	瀬尾勝弘	奥田史雄
	昭和54年卒	武藤正彦	◎学生
	昭和55年卒	清水良一	6年生
	昭和56年卒	島袋智之	5年生
	昭和57年卒	中村康彦	4年生
	昭和58年卒	村上不二夫	3年生
	昭和59年卒	黒川泰	2年生
	昭和60年卒	三輪茂之	1年生
	昭和61年卒	下郡博明	
	昭和62年卒	村松慶一	
	昭和63年卒	下田宏二	
	平成元年卒	湯尻俊昭	
	平成2年卒	金沢守	
	平成3年卒	渡邊悦也	
	平成4年卒	田村博史	
	平成5年卒	藤村智之	
	平成6年卒	安本教則	
	平成7年卒	草野倫好	
	平成8年卒	岡本健志	

	柳井亮二
	平田寛
	徳久善弘
	篠山端也
	瀬戸崎修司
	三谷紀之
	宮地英彰
	佐伯一成
	上別府豊治
	北田真平
	清水弘毅
	二ノ坂建史
	山縣裕史
	佐藤大輔
	徳永良洋
	芳賀聡
	古谷圭
	村上駿一
	伊勢田憲史
	今井智子
	河生多佳雄
	島村亮助
	口分田啓
	石井幸多
	山谷優明
	久保輝太
	◎2号会員
	奥田史雄
	◎学生
	6年生
	飯田美里
	5年生
	瀬戸口貴昭
	4年生
	羽鳥未季子
	3年生
	吉村美賀子
	2年生
	兼崎舜
	1年生
	松田陸来

教室紹介

医療情報判断学講座

当講座の基となる医療情報部が附属病院の中央診療部門の一つとして院内措置の形で設立されたのは1989年(平成元年)に遡ります。実際には、1996年に国立大学附属病院としては16番目の訓令組織となり、2006年に大学院医学系研究科の正式な講座として認められました。1997年に井上裕二先生が初代教授に就任されてからとすると歴史の浅い講座となります。

現在、医療情報判断学講座および医療情報部は、教員2名、技術職員2名、研究補助員3名、医事課事務職員6名(係長、主任を含む)の体制となっておりますが、看護部からも専任2名、併任1名のスタッフを派遣いただき、看護支援ばかりでなく研究面でも活躍いただいております。

そのような体制のもと、医療情報部は、言うまでもなく、主に病院情報システムと中核となる電子カルテシステムの企画・運用をしております。同システムは初期の医事、検査などに限定されたものから2009年には全ての診療情報の電子化を実現し、本年2月に電子カルテとしては2回目のシステム更新を行っております。今回の更新では、

この間のICTの進展を受け2つの主たる変革を行っております。一つは、モバイル端末を利用したシステムの導入を進めたことです。看護師のベッドサイドでの認証や確認、入力を支援する機能を従来のPDAより機能レベルの高さのiPad touchに載せ替え、PhoneやノートPCを用いて院外からの電子カルテ情報の参照を可能とし、Webを用いた問診機能を導入しております。

もう一つの変革はAIシステムとの連携を実現したこととです。これまで、ベンダーとの共同研究の中で、様々な状況においてアラート・リマインダーを発生する臨床意思決定支援システム(CDSS)の開発、導入を進めてきましたが、今回、その基盤の上でAIシステムと連携し、より高性能なCDSSに発展させていきます。今後の具体的なコンテンツ拡大に向けて、AIシステム医学・医療研究教育センターと密に協働して進めているところです。

また、電子カルテに日々、蓄積される情報の一次、二次利用を容易に可能とすることは重要な継続課題です。そのためにも構造化された書式上でのデータ

入力が重要で診療科や部門のニーズに応じて作成し、その情報がAI研究に活用されるケースも出てきています。また、病理、放射線レポートなどのテキスト情報についても活用可能で、これらの様々な診療情報を新たな知見やAIアルゴリズム創成などのリソースとして最大限に活用されることを願っている所です。

さらに、このテーマの18年のAMED研究事業の中で外科の症例登録支援システムに取り組み、中四国の全ての大学と山口県内の複数の病院に導入いただきました。このシステムは、それまでWeb上で全て手入力が必要で、登録された情報も自施設には残らなかった状況を、電子カルテの情報を活用して可能な限り自動入力を実現し、登録情報を自施設にも蓄積可能とすることで改善を図るものです。今後も領域を問わない診療情報の登録を支援し、様々な利用可能な情報の資産化を図って行くことで大学病院の情報部門としての重要な使命を果たして行く所存です。

一方、当講座においてもこれらの診療データを用いた研究に取り組んでおります。具体的には臨床の諸先生のご指導のもと、慢性肝炎などの比較的長期のデータをを用いた縦断的な解析モデルの構築や薬剤の費用対効果分析、NDBデータをを用いた時系列での費用推定など、小規模、大規模なReal world dataを用いた研究を行っております。また、昨年からは医療画像におけるAI研究を専門とする平野 靖准教授が着任し、画像に関するテーマを

中心に他科と連携して研究を進めており、研究領域の

拡大につながるものと期待しております。今後にも以上のような活動を通して、スタッフ一同、協力して業務、ならびに研究支援、および、研究・教育に真摯に取り組んで参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、霜仁会の先生方には日頃からご指導とご厚情を賜り深謝申し上げますとともに、引き続き、ご指導、ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。
(石田 博・平野 靖)

井上裕二先生は2014年に徳山中央病院長として異動されるまでの間、初代教授として本講座の基盤構築に尽力され、その後の発展に多大に貢献されました。その間、1997年から清水昭彦先生(前保健学部長)が第二内科から異動され、2001年に保健学科教授になられるまで准教授として活躍されております。同年7月に副部長として赴任した石田 博が2014年に2代目の教授を拝命し今日に至っております。今回の更新では、

そのような体制のもと、医療情報部は、言うまでもなく、主に病院情報システムと中核となる電子カルテシステムの企画・運用をしております。同システムは初期の医事、検査などに限定されたものから2009年には全ての診療情報の電子化を実現し、本年2月に電子カルテとしては2回目のシステム更新を行っております。今回の更新では、

この間のICTの進展を受け2つの主たる変革を行っております。一つは、モバイル端末を利用したシステムの導入を進めたことです。看護師のベッドサイドでの認証や確認、入力を支援する機能を従来のPDAより機能レベルの高さのiPad touchに載せ替え、PhoneやノートPCを用いて院外からの電子カルテ情報の参照を可能とし、Webを用いた問診機能を導入しております。

もう一つの変革はAIシステムとの連携を実現したこととです。これまで、ベンダーとの共同研究の中で、様々な状況においてアラート・リマインダーを発生する臨床意思決定支援システム(CDSS)の開発、導入を進めてきましたが、今回、その基盤の上でAIシステムと連携し、より高性能なCDSSに発展させていきます。今後の具体的なコンテンツ拡大に向けて、AIシステム医学・医療研究教育センターと密に協働して進めているところです。

また、電子カルテに日々、蓄積される情報の一次、二次利用を容易に可能とすることは重要な継続課題です。そのためにも構造化された書式上でのデータ



病院紹介

美祢市立病院



病院長 **ながと きお 松永登喜雄** 先生



霜仁会員の先生方には平素よりご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。また山口大学医学部ならびに医学部附属病院の先生方には多大なるご支援とご指導を賜り、心より御礼申し上げます。

美祢市立病院は、内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の5科、一般病床150床、常勤医8名で平成2年4月に開院しました。平成3年に脳神経外科、平成7年に放射線科を開設し、常勤医も13名となりました。平成10年7月には介護老人保健施設（70床）が

併設となり、小児科医も常勤となりました。平成14年には泌尿器科開設と同時に血液透析センターも稼働しました。常勤医師も15名となり、医局も賑やかだったことを思い出します。平成20年に旧美祢市、美東町、秋芳町が合併し、新美祢市が誕生しました。これにより、美祢市には当院と美祢市立美東病院の2つの市立病院が配置されました。しかし、臨床研修制度の改革をきっかけに当院の常勤医師も減少の一途をたどり、平成25年には5人までに減り、その後の約10年間は

常勤医5-6人体制が続く厳しい状況が続きました。この間、療養病床や地域包括ケア病床基準等により病床数を調整し、平成30年度に療養病床49床、地域包括ケア病床30床、一般病床59床の計138床での運用となりました。当院では年間それぞれ延べ約40,000人の入院患者および外来患者の診療を行ってきましたが、コロナ禍になりその実績は減少しています。また、平成29年1月には訪問診療を開始しました。現在、常勤医師は、内科3名、外科4名、整形外科1

名、総合診療科2名、脳神経外科1名の11名、看護師数77名、介護職員22名、コメディカル27名、事務職員等41名の総数178名での診療体制となっております。さらに、外来診療科としては消化器内科、血液・内分沁内科、呼吸器内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、皮膚科、初期診療科および麻酔科に山口大学医学部附属病院より非常勤医師を派遣していただいております。我々美祢市立病院の診療体制の特徴は、(1)医務部(医局)においては医師同士のコミュニケーションが良好で、診療科を越えて診断や治療に関するカンファレンスや自然発生的に行われていること、(2)看護部はチームワークが良く、(3)医療技術部(薬局、放射線、臨床検査部門、リハビリテーション、栄養科、臨床工学科)は、機動力が素晴らしく、(4)事務部や地域連携室はきめ細かいサポートにより部署間の協力を良好に維持してくれていることです。中小病院ならではのフットワークとチームワークの良さが心地よいと自負しております。

当院は、美祢市を中心とした中山間地域の地域医療の拠点としての役割を果たすために開設されました。現在も美祢市・美祢郡医師会13診療所の先生方のご指導や山口大学医学部の全面的なご指導とご支援をいただいております。美祢市においても「美祢市地域医療推進協議会」が平成22年6月から設置され、美祢市の医療及び介護福祉関係者、学識経験者、一般市民を委員として、美祢市の地域医療の継続発展に対して、市民、医療機関および市の役割分担が協議されてきました。当院の立ち位置は、「地域基盤型病院」や「地域密着型病院」であり、「かかりつけ機能を担う病院」「健康増進拠点病院(HPH)」という当院の病院機能を明確に発揮する必要があります。平成24年にはプライマリ・ケア学会認定医・指導医を当時の医務部のほぼ全員(6名)が取得しました。また、日本医療機能評価機構による第三者評価を受審することで安全で標準的な医療が実践できているかを確認していただきました。この機能評価では、平成16年から令和元年まで4回の認定を受けました。プライマリ・ケア、医

療機能評価のどちらにも重要なKey Wordは、「地域における自院の役割」を把握し何をすべきかを計画できる事です。この2つの視点から今後も当院が地域医療において果たすべき目標を立案、実践して参りたいと思っております。

今年度より、山口大学医学部附属病院総合診療部から当院に2名の総合診療医を派遣していただきました。当院が提供できる医療サービスの幅が増すものと期待しております。そして、当院に地域医療の研修に求められる研修医の先生方も増えてきました。地域医療の魅力是非お伝えしたいと思っております。

美祢市、美祢市民の皆様とともに継続的で包括的かつ質の高い医療を提供出来る美祢市立病院であるべく、職員一同チーム一体となって努力を続ける所存です。今後とも引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ニューフェイス

卒業臨床研修体験談

山口大学医学部附属病院 放射線治療科

萩田雅子

初期研修を終えて

山口大学医学部附属病院 整形外科

上田誠也

はじめまして。今年度より放射線治療科に入室しました萩田雅子です。私は学部高校出身、山口大学卒業という地元ではよくあるルートを辿り、親元から離れて一人でも大丈夫という自信をつけるために研修は県外へ行きました。そこは初期研修に力を入れており、地域研修では奄美大島や与論島など本当の「地域」で研修ができること、積極的に学会へ参加できること（コロナ前）に惹かれ選びました。研修が始まると、知り合い0の慣れない環境、使い勝手の違う電子カルテ、夜中の救急対応など度重なる試練に不安の種は尽きませんでした。一番印象深かった地域研修では、必ずしも最先端の医療が患者さんにとっての幸福ではないことを痛感し、想いに耳を傾け寄り添いながら治療をしていく大切さを実感しました。初期研修が終わった今



前列向かって左が萩田

https://www.kure-kyosai.jp/index.html

の努力次第でどこの病院も最高の学び場になるということ。研修で学んだ手技、知識、考え方はもちろんですが、そこで築いた人間関係もかけがえのない財産になりました。これからは地元・山口県の医療に貢献できるよう、初心を忘れず日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。国家公務員共済組合連合会 呉共済病院

私は山口大学を卒業後、徳山中央病院で初期臨床研修をさせていただきました。2年間の初期研修では特に、救急医療を学びたいと思い、徳山中央病院を選択しました。徳山中央病院では1次から3次救急まで幅広く受け入れを行っており、豊富な症例数があり、様々な経験をさせていただきました。屋根瓦式の教育体制があり、毎朝のモーニングカンファでは救急科や総合診療内科の先生方からフィードバックをいただき当直業務をするたびに成長を感じることができました。また、徳山中央病院では、研修医の数が多く、出身大学が山口大学以外の者も数多くいましたが、同期同士の仲が良く、交流を通じていい刺激を受けることができました。ここで得た友人は一生の宝になると感じております。



後列2列目向かって右から2番目が上田

https://tokuyama.icho.go.jp

第10回山口大学ホームカミングデー

第1回ホームカミングYUMEフェスティバル

日時：2022年（令和4年）10月8日（土）～9日（日）

場所：山口大学小串キャンパス

医学部において「ホームカミングデー」（卒業生の皆様が学び舎に集い旧交を深める日）を、山口大学医学会、医学祭と合同で「ホームカミングYUMEフェスティバル」として開催いたします。

山田貴敏氏（「Dr.コトー診療所」原作者）による講演会開催予定：10月9日（日）
共催：山口大学医学部、山口大学医学会、医学祭実行委員会

第128回山口大学医学会学術講演会：10月9日（日）

中村賞・小西賞受賞講演ほか、教授の特別講演、若手研究者・学生など、様々な学術講演を予定しています。

第77回医学祭：10月8日（土）～9日（日）

今年度は学生主催で、来場者を招いて対面実施できるよう、医学祭実行委員会が様々な企画を準備し、お待ちしております。

TERUMO

えっ!これがポンプ?

日本初。チューブフリーのパッチ式インスリンポンプ。
MEDISAFE WITH

一般的名称: オータブルインスリン用輸液ポンプ 販売名: メディセーフアイズ 医療機器承認番号 22900B2X00374

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区福寿2-44-1 www.terumo.co.jp

記載されている社名、各種名称は、
テルモ株式会社および各社の商標または登録商標です。
©テルモ株式会社 2020年7月

ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

国際ホテル宇部

☎ **0120-375931**
山口県宇部市島1丁目7-1
<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

医療関連事業
疾病の診断から治療までを担う

ニュートラシューティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。

Daiichi-Sankyo

Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

ANA CROWNE PLAZA®

AN IHG® HOTEL
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112 (代)

山口大学医学部霜仁会の 会員総合補償制度

中途加入受付中！ 中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと翌月の1日が補償の開始日となります。

団体割引※が適用されるため、**保険料が割安**です!!

※団体割引は毎年変動する可能性があります。本チラシに記載の団体割引は、2022年4月1日～2023年4月1日までに保険始期のあるご契約に適用されます。



産業医等活動保険にもご加入できます！
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

万一の医療事故を補償

医師賠償責任保険
(勤務医向け)

団体割引 20%

地震や日常生活による**ケガ**・**携行品**・**賠償責任**を補償

傷害補償

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。(地震・噴火・これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

団体割引 **5%**

働けなくなった時の**収入**を補償

所得補償

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

所得補償、団体長期障害所得補償
どちらも加入することをおすすめします。

団体割引 **10%**

万一の**がん**・**病気**・**ケガ**を補償

がん補償

- ◆がんと診断されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日でも補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

団体割引 **10%**

長期働けなくなった時の**収入**を補償

団体長期障害所得補償

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

団体割引 **10%**

医療補償

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

突然**介護**が必要になった時に**保険金**をお支払

介護補償

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断された状態が90日を超えて継続した場合

いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払いします。

団体割引 **10%**

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書によります。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

お問合せ先・取扱代理店	引受保険会社
<p>株式会社パイオニア (平日)午前9時～午後5時</p> <p>〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-16 小泉第2ビル3階</p> <p>TEL : 0120-010-938 FAX : 0120-921-051</p> <p>http://www.pioneerltd.com yamada@pioneerltd.com</p>	<p>東京海上日動火災保険株式会社</p> <p>(担当部) 医療・福祉法人部 東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014</p> <p>TEL : 03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp</p> <p>募集文書番号 : 21-TC10056 2022年2月作成</p>



いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company



東京海上日動

Hisamitsu

経皮鎮痛消炎剤

[薬価基準収載]

モーラス®パップXR120mg

MOHRUS®PAP XR120mg

ケトプロフェン2%

[薬価基準収載]

モーラス®パップXR240mg

MOHRUS®PAP XR240mg

ケトプロフェン2%

●「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 **久光製薬株式会社**

〒841-0017 鳥栖市田代大官町408番地

資料請求先：お客様相談室 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号

フリーダイヤル 0120-381332 FAX.(03)5293-1723

受付時間 / 9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く)

2021年6月作成

医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《日本医書出版協会認定》
《医学・看護学専門書店》

井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]

<http://www.mm-inoue.co.jp>

まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。

 **astellas**
アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

印刷を企画から在庫管理・発送まで

一括サポート!

まずはお気軽にご相談ください。

 **瞬報社オフリン印刷株式会社**

[本社] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912

[営業所] 広島・下関物流センター

病理組織・細胞診検査 動物実験研究用病理標本作製



検査項目

- 細胞診：婦人科
- 細胞診：一般(呼吸器・泌尿器・体腔液・その他)
- 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査
特殊染色(免疫染色法を含む)
ER、PgR、HER2染色法
- 研究用病理組織標本作製 ※詳細は検査案内書参照

結果報告

- 受け取りから結果報告まで
細胞診：2～3日
病理組織診断：3～4日
(脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は多少時間がかかります)
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

組織、細胞診検査の集配業務行っております。

各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。
新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

(社)霜仁会検査センター

〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F
TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

ジエネシス

部活・サークルの新歓報告

2022年度広報委員長

医学科 四年 木村綾佑



医学部新入生を対象とした部活、サークルの勧誘活動である。うえるめでいぐが4月23日(土)、24日(日)の2日間に渡り、吉田キャンパス第1体育館で開催されました。

医学部自治会が主催したこのイベントには約30の学生団体が参加し、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、健康観察表の提出や入場時の検温、ソーシャルディスタンスの保持など、例年とは異なる中で開催となりましたが、新入生は興味のあるスポーツや文化活動の紹介に熱心に耳を傾けていました。

友達が出来た。「高校の頃にはなかった医療系のサークルに興味を持った。」などの声があり、勉学のみならず課外活動に対しても積極的に取り組もうとする様子が伺えました。

山口大学医学部では約8割以上の学生が部活、サークルに参加しており、全国の医学部の中でも活発な課外活動への参加が特徴です。新型コロナウイルス第6波の影響により今年1月から制限されていた活動も、4か月振りに制限が緩和され、桃山グラウンドや体育館では、再びスポーツに精を出す姿が見られる様になりました。依然として予断のない状況下ではあります。団体ごとに感染対策に対しての地道な取り組みを続けています。新入生の皆さんには課外活動をきっかけに友人や先輩、先生方と知り合うことで仲間の輪を広げて貰い、豊かな学生生活を送って貰

うことを願ってやみません。大学には高校卒業と同時に入学した学生もいれば、浪人や再受験して入学した学生も多くいます。ひょっとするとその様な学生の方が多いのかもしれませんが、自身も別の大学を卒業した後で山大に入りましたが、部活に入り仲間達と共に汗を流しています。歳が離れていても、どの様な経歴であつても最初は同じ1年生としてのスタートです。是非、皆さんも部活やサークルを通じて一度きりの青春を謳歌してみてください。



2年生になつて

医学科 二年 戸坂泰平



の医学生ならではの講義や実習を行っていく度に、医師へ向けての階段を一步一歩登っている気がしてならない。

地元、山口大学の学生となつて気が付けば一年という月日が経過していた。高校を卒業後予備校に行き、浪人生として生活していた時とは打って変わつて、1年生の間は勉強も程々に、部活や大学での新しい友人や先輩方との交流を深めながら、いわゆる大学生らしい日々を過ごしていた。

しかしながらこの生活は2年生に進級すると一変した。平日は月曜日から金曜日まで座学と実習で朝から夕方まで大学に入り浸り、休日も月曜日のテストに向けて夜遅くまで勉強するといったような生活を送っている。2年生になつてまだ少ししか経たない現在でも、とてつもない忙しさを感じていると共に、徐々に医学生としての実感が湧き始めているところだ。医学の専門的な授業や、2年生の醍醐味である解剖学実習など

を改めて決意した。
 2年生になり、勉強も専門的な学習が始まり忙しい。

3年生になつて

医学科 三年 水津 凛太郎



560点。これは高校3年次のセンター試験で私に突き付けられた得点です。医学部合格には程遠い点をとって、「8割くらいはとれたよ」と周囲の友人にうそぶきながら過ごした高校生活最後の日々を私は今でも忘れることができません。そして、ついに迎えた高校卒業の日。受験勉強をやりきった友人たちの輝く瞳を見つめながら、あまりの情けなさに不覚の涙を禁じえなかつた最後のホームルームの記憶は私の海馬に深く刻み込まれています。

そんな私ですが、両親の支えもありなんと1年間浪人生活を終え、この山口大学医学部に入学しました。入学直後は新しい環境

日々ではあるが、これから文武両道を心掛けていきたい。

日々ではあるが、これから文武両道を心掛けていきたい。

日々ではあるが、これから文武両道を心掛けていきたい。

4年生になつて

医学科 四年 村上 雄紀



今年最初の桜は緑色でした。暖冬に加え、コロナ禍によるリモート授業、生来の出不精が重なり、やっとのこと家から出た時には、春の代名詞ともいえるピンクの花弁は、初夏の香りさえ感じさせる葉桜へとすっかり姿を変えていました。桜を見逃してしまつたのと同時に、桜を見ると胸の内から湧き上がってくる新しい1年が始まるという浮き立つような気持ちも逃してしまい、新しい年度が始まった、4年生に進級したという思いのないまま今年

約半年間研究活動を行うことができそうです。私は脳の機能に興味があるので、神経解剖学講座での活動を予定しています。今後も、学業やサッカーに真剣に向き合いながら良医を目指していきたいと思えます。

5年生になつて

医学科 五年 藤井 祐輔



度が始まりました。例えば、今年に進級したという実感も今までより薄いものでした。1年生は期待に満ちた大学生活、2年生は学部にて待ちに待った医学部の授業、3年生は臨床講義といったようにこれまでの学年は何かが始まるタイミングでしたが、4年生は昨年度からの続きです。気持ちの上では3年生のままでした。

はじめまして、山口大学医学部医学科5年の藤井祐輔と申します。今回はこのように機会を頂きありがとうございます。拙い文章ではありますが、お付き合いいただければ幸いです。一昨年から新型コロナウィルスが私たちの生活を大きく変え、1月から始まったポリクリ実習でも、開始4日目から病棟に入るこ

撃だったのは今年保健学科の同期が卒業することです。寂しさとともに時間が経つたことに気が付きました。部活以外4年生になったと気付かせてくれるものはいくつもあります。昨年まではドラマしか見なかった友人が予備校の映像授業を見始めたり、テスト結果や授業の連絡くらいしか書かれていなかった学年のグループラインにCETやOSCEに関する情報が書かれたり

するようになりました。こういったように変化を感じ、だんだんと時間の流れに追いつきつつあります。今年は、ここ学部に来てから桃栗3年の、3年目に突入しました。臨床の講義もどんどん進み、11月にはこれまでの集大成としてのCET、OSCEと大きなテストも待ち受けています。

とができず、約3ヶ月間実習らしい実習が行えませんでした。今回のテーマの通り、「5年生になつて」ようやく通常のポリクリ実習が行えるようになり、益々意欲も湧いているところで、このように私たちが病院実習を行っているのも、現場で働く方々や山口県の皆様による感染拡大防止策への尽力によるものであり、山口大学の医学生として身が引き締まる思いです。

医師という職業にはずっと憧れていましたが、具体的な志望科は未定のままです。

医師という職業にはずっと憧れていましたが、具体的な志望科は未定のままです。

した。そのような中でポリクリ実習が始まったので最初は不安もありましたが、素晴らしい職員に恵まれ、充実した日々を過ごしています。さて、通常のポリクリ実習が再開して最初に回った診療科は眼科でした。

クラブ紹介

管弦楽部

医学科 三年

衛藤三和



現在、山口大学医・工学部管弦楽団で医学部キャプテンを務めさせていただいております。医学科3年の衛藤三和です。管弦楽団は現在6年生8名、5年生8名、4年生13名、3年生14名、2年生8名の計51名で活動しています。練習は週に3回行っており、課外活動施設の音楽練習棟で行っています。主な演奏活動としては、10月下旬に行われる定期演奏会と、4月末に行われる合同演奏会があります。合同演奏会は山口大学管弦楽団との合同で開催するもので、医学部や工学部だけでなく他学部の団員との交流を深める機会でもあります。演奏会の曲目は主にクラシックを演奏しており、団員たちが演奏したい曲を出し合い、その後パーティリーダーたちの話し合いを経て決められています。普段の練習では主に、それぞれの楽器ごとに分かれてパート別に基礎練習や部分練習などを行い、その後全体での合奏練習を行います。パートごとに音が揃っていても合奏の際にはずれが出てしまうことも少なくありません。指揮者の指示やテンポに従いながら、お互いの音をよく聴き一体となるように何度も練習を重ねていきます。また、曲を演奏するときにはただ弾くだけではなく、その曲にある背景やイメージを全員で共有しながら、曲を通して同じ景色を頭に思い描けるようにすることが重要です。一つ一つの音が重なり合い、曲が完成していく過程は、何度経験しても飽きることはありません。いつも新鮮な喜びに満ちています。団内は、楽器の経験者や未経験者を問わず積極的に活動しており、先輩方からの丁寧な指導を受けながら練習できる環境です。OBやOGの先輩方とのつながりも深く、定期演奏会では人数の足りないパートなどに参加して演奏していたりすることもあります。このような形で、卒業後も先輩方との親睦を深める機会を持つことができ嬉しき限りです。最近の活動では、コロナ禍の状況を鑑みて開催を断念してしまったり、演奏会や普段の練習も行うことができない期間もありました。しかしそれでも、開催予定の演奏会に向けて感染対策を十分に行ったうえで、できる限りの活動を行っています。また、このような状況だからこそ改めて当たり前に演奏活動ができていたことへの感謝を実感しました。日頃より、顧問である池田教授をはじめ、OBOBの先輩方からの多大なるご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。部員一同精一杯努めさせていただきますので今後ともよろしく願いいたします。

印象に残っているのは眼底実習です。実習では散瞳薬を用いたのですが、右眼に何回も差していると、先生から「お前、目バキバキやんけ」と言われました。そこで写真を撮ったところ、瞳孔が自分史上最大に開いていました。その日は寝るまで遠近感が掴めず、眼鏡の右眼側に紙を貼り付け一夜を過ごしました。この経験を通して、瞳孔反射の重要性を痛感しました。ちなみに僕の眼底所見に異常は認めませんでした。

このように、充実した中でも楽しい日々を過ごしており、それぞれの診療科に良さを感じています。まだまだ実習は続きますが、医師となつて患者さんの笑顔

があります。演奏会の曲目は主にクラシックを演奏しており、団員たちが演奏したい曲を出し合い、その後パーティリーダーたちの話し合いを経て決められています。普段の練習では主に、それぞれの楽器ごとに分かれてパート別に基礎練習や部分練習などを行い、その後全体での合奏練習を行います。パートごとに音が揃っていても合奏の際にはずれが出てしまうことも少なくありません。指揮者の指示やテンポに従いながら、お互いの音をよく聴き一体となるように何度も練習を重ねていきます。また、曲を演奏するときにはただ弾くだけではなく、その曲にある背景やイメージを全員で共有しながら、曲を通して同じ景色を頭に思い描けるようにすることが重要です。一つ一つの音が重なり合い、曲が完成していく過程は、何度経験しても飽きることはありません。いつも新鮮な喜びに満ちています。団内は、楽器の経験者や未経験者を問わず積極的に活動しており、先輩方からの丁寧な指導を受けながら練習できる環境です。OBやOGの先輩方とのつながりも深く、定期演奏会では人数の足りないパ



霜仁会年会費自動引落日変更についてお詫び

例年5月26日に行っていましたが、誠に勝手ながら諸般の事情により、今年度は6月27日に引落を行いました。会員の皆様にはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。
※次年度の引落は従来通り5月26日の予定です。

- 大里享祐先生（昭28年卒）
令和3年4月13日逝去
多米久先生（昭26年卒）
令和3年10月30日逝去
相川一郎先生（昭29年卒）
令和4年3月11日逝去
本田耕士先生（昭59年卒）
令和4年4月5日逝去
金丸吉隆先生（昭31年卒）
令和4年5月3日逝去
ご冥福をお祈りいたします。

訃報

12年間にわたり霜仁会第13代会長を務められた福本陽平先生が退任され、第14代会長に福田進太郎先生が就任されました。また一般社団法人となつてから初の会長選挙を厳正に行つた結果、新体制が発足しました。会員の皆様に於かれましては、引き続き霜仁会をどうぞよろしく願いいたします。景気刺激を目的とした量的金融緩和と政策の最中に起こつたコロナ禍とロシアのウクライナ侵攻により、世界的なインフレが加速しています。今後山口大学医学部の置かれる状況も厳しいものとなることが予想されますが、霜仁会の活動が一助となることを願つてやみません。（内山浩一）

編集後記

えで、できる限りの活動を行っています。また、このような状況だからこそ改めて当たり前に演奏活動ができていたことへの感謝を実感しました。日頃より、顧問である池田教授をはじめ、OBOBの先輩方からの多大なるご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。部員一同精一杯努めさせていただきますので今後ともよろしく願いいたします。